

■梶井基次郎 小説家。<戦時体制>初期に、近代的な倦怠・憂鬱・不安を鋭敏に表現したが、認められる間もなく、夭折。

かじいもとじろう

田中正造直訴1901＝ 大阪生れ。父は商家の出で、当時安田運輸所に勤務。母も商家の養女で、幼稚園の保母をしていた。同年異母弟順三も誕生。

日露戦争始・1904＝ 3歳：日露戦争で運輸所が繁盛、父は家庭をかえりみなくなる。

日露戦争終・1905＝ 4歳：

韓国反日暴動1907＝ 6歳：尋常小学校に入学。母は保母を辞め、古典を読み聞かせるなど、子どもの教育に力を入れる。

アヲキ`創刊・1908＝ 7歳：急性腎炎で死にかける。

伊藤博文暗殺1909＝ 8歳：父の東京本店転勤で、一家で上京するが、会社の処遇に不満を持った父が酒びたりになり、順三母子も引き取ったため、家計は窮乏。

韓国併合・・・1910＝ 9歳：私立頌栄尋常小学校に転入。

大逆事件判決1911＝10歳：父が鳥羽造船所の営業部長となり、鳥羽尋常小学校に転入。順三の母が病没、以後彼と同居。

明治天皇没・1912＝11歳：6年に進級、級長となる。

大正政変・・・1913＝12歳：全甲の成績で卒業し、三重県立第四中学校に入学。兄の下宿先に入るが、父の転勤で大阪に戻る。

第一次大戦始1914＝13歳：大阪府立北野中学に転入。

21ヶ条要求・1915＝14歳：実弟が脊椎カリエスで死去。

民本主義・・・1916＝15歳：順三は奉公に出された。中退し、筋向いのメリヤス問屋に丁稚奉公。父が退職、家で玉突き屋を開業。

ロシア革命・1917＝16歳：北野中学に再入学。同校の美少年に惹かれる。

本格政党内閣1918＝17歳：病で寝込み、鷗外や漱石の作品に親しむ。

ベルリン条約・1919＝18歳：卒業。兄の出た大阪高等工業学校を受験するが、失敗。父の知人の娘に初恋。第三高等学校理科甲類に合格、寄宿寮に入るが、中谷孝雄、外村繁らを知って文学・音楽への関心を深め、授業に出なくなる。

大暴落・・・1920＝19歳：肋膜炎で発熱、帰阪。落第。転地療養し、母は学業中止を勧めたが、憤慨して、復学、寄宿寮に戻る。

原敬首相暗殺1921＝20歳：異母妹、通学中の車内で見掛けた女生徒などに次々と惹かれる。下宿に移り、初めて遊郭へあがり、

水平社結成・1922＝21歳：酒に酔っての乱行が度を超えるなど、頹廢的な生活を送るが、両親に告白し、自宅で謹慎。

関東大震災・1923＝22歳：落第。肺結核が進行していたが、作家への道を志す。

護憲三派圧勝1924＝23歳：嘆願して卒業。上京して、東京帝国大学英文科に入学。異母妹が死去。

治安維持法・1925＝24歳：*中谷、外村らと雑誌(青空)を創刊し、同誌に「檸檬」「城のある町にて」など後に梶井の代表作とされる佳作を発表するが、文壇からは注目されなかった。

円本時代始・1926＝25歳：以降、伊豆の湯ヶ島温泉に転地療養し、その間に、多くの文人と交友を結び、

金融恐慌・・・1927＝26歳：「冬の日」、

共産党事件・1928＝27歳：*「冬の蠅」などの自己と外界への認識の深まりを示す作品を書く。宇野千代をめぐる感情のもつれから、尾崎士郎と悶着を起すなど相変わらずの所もあったが、病状悪化して郷里の大阪に帰る。東大は除籍。

世界恐慌・・・1929＝28歳：父が死去。

海軍軍縮条約1930＝29歳：肺炎で寝込んだり、入院した母の看病。母とともに、兵庫県の兄の家に入る。

満州事変・・・1931＝30歳：*病氣と闘いつつ生と死の極点を清澄な目でみつめた「交尾」を発表。「檸檬」が刊行され、印税を受け取る。

五一五事件・1932＝31歳：*初めて文壇誌に「のんきな患者」を発表、時評で取り上げられ話題になったが、容態が悪化し、没した。